

〔書 評〕

個人史から見た高村薫『李歐』

小 川 雅 弘

高村薫『李歐』の舞台となる場所および主人公の経歴は、私と重なるところが大きい。そこで、描かれた背景への違和感を述べることによって私の個人史を述べたい。つまり、小稿は『李歐』に対する文学的評価ではないし、私にはその力もない。

使用したのは、高村薫『李歐』講談社文庫、1999年2月15日第1刷発行、2002年第14刷である。なお、『李歐』は、『わが手に拳銃を』（1992年、講談社）を大幅改稿した、文庫書下ろしであり、ハードカバーは存在しない。

『李歐』の一般的評価はかなり高いようである。たとえば、Amazonにおけるカスタマーレビュー（2022年2月23日）は、

平均4.1 星5つ=56% 星4つ=17% 星3つ=9% 星2つ=16% 星1つ=2%

であり、高村薫の著書の中では11番目で、『レディ・ジョーカー』上（5位）・中（8位）・下（6位）を1つとして数えれば、9位である。

しかしながら、筆者は『李歐』の記述に大きな違和感を持つ。その違和感を指摘しながら自分史を振り返りたい。

高村薫の重厚な文体は魅力的である。しかし、『李歐』についてAmazonの評価でも、疑問を指摘されている。たとえば、5つ星のうち2.0評価「現実感を欠けた冗長なアウトロー物語」では、中国語の文法錯誤や、李歐が台湾人名で電話する際も北京語訛りを隠さない点などに疑問を呈されており、李歐の両親についても、1960年の在日華僑が簡単に中国に戻れたこと、さらに北京政府の外事局への就職などが非現実的と指摘されている。

I. 年譜等

吉田一彰の年譜

主人公＝吉田一彰の年譜は『李歐』から次のように読み取れる。指示ページは高村薫『李歐』講談社文庫の根拠となるページである。

1954年4月 東京で生まれる。父親は大蔵省の役人。

26ページ15行目・75ページ3行目・241ページ12行目・294ページ16行目

1960年3月 大阪市へ母親と移動。初めは淀川区十三近く（おそらく塚本）の母子寮に入

り、その後、西淀川区姫里のアパートへ移る。

26ページ15行目・77ページ1行目・同6行目・同13行目・115ページ13行目・242ページ7行目

1960年夏 父母が正式に離婚。

92ページ5行目

1961年4月5日 母が西淀川区姫里の守山工場の工員と駆け落ち。一彰は東京の祖父母のもとへ引き取られる。

27ページ2行目・47ページ1～2行目・130ページ1行目・229ページ5行目

1961年4月～1973年3月 東京の祖父母のもとで暮らす。

130ページ1行目・133ページ5行目

小中高校については記述なし。

1970年2月 母親が台北で死亡。

135ページ3行目

1973年4月 大阪大学工学部入学。茨木市のアパートに住む。

26ページ11行目・46ページ4行目

1975年4月頃 北新地のナイトクラブ「ナイトゲート」でアルバイト開始。

30ページ4行目

1976年4月 「ナイトゲート」の外で李歐と出会う。

9ページ3行目・42ページ～

1976年4月 「ナイトゲート」で殺人事件が起きる。金貸し＝寥から目標の男を電話口へ呼ぶ出すよう指示される。殺人実行犯は鈴木＝李歐。

63ページ～・139ページ5行目

1976年5月10日 大阪大学工学部退学。

143ページ1行目

1976年7月 いったん東京の祖父母のもとへ帰り、その後、大阪の守山耕三の元へ行く。

208ページ8行目・149ページ16行目・162ページ11行目・163ページ16行目

1976年7月22日 李歐と密輸の銃を横取りする。

177ページ13行目・233～264ページ

1976年8月 陳浩の殺害に関して自首。8月17日に殺人ほう助で逮捕。

243ページ12行目・268ページ・269ページ4行目

1977年春 殺人ほう助で有罪、懲役4年。大阪刑務所へ入獄。

269ページ14行目～270ページ1行目

1980年8月 刑期満了で出所し、守山の工場へ行く。

1981年3月 守山耕三死去。

272ページ1行目

1980年 守山耕三の娘＝守山咲子が週末毎に来るようになる。

375ページ6行目（表題込）

1980年 一彰が守山の工場を継ぐ。

376ページ 1 行目

1985年 咲子妊娠。(結婚については記述無し。)

1986年 1 月 長男＝耕太が生まれる。

458ページ 9 行目

1987年初めおよび88年 李歐が一彰に中国渡航を打診。

460ページ 2 行目

1990年 2 月 爆破によって咲子死亡。

462ページ16行目・464ページ11行目・487ページ・500ページ 2 行目・同 3 行目・同12
行目

1990年 3 月 一彰と耕太が中国へ移る。

1991年 4 月 李歐と再会。

517ページ～の記述。

守山耕三の年譜

一彰を援助し、その後に義理の父となる守山耕三の年譜は下記のとおりである。

19??年 満州で生まれる。父親は満鉄の技術者。

132ページ 9 行目・同14行目・79ページ 4 行目

19??年(日米開戦1941年12月より前) 母親と大阪へ戻る。応召してインドネシアへ。

132ページ13行目

1945年 8 月 インドネシアで終戦を迎える。

132ページ14行目

19??年(1945年より後) 帰国して大阪市西淀川区姫里の父親実家の工場を継ぐ。その実
家を継いだ姫里の工場は教会の隣にある。

132ページ15行目・78ページ 5 行目

1947年～1948年 3 月 長女＝咲子誕生。

378ページ10行目

1960年 9 月 妻と娘が実家へ戻る。

94ページ11行目

1961年 4 月 6 日 外国人を違法に就労させた入管難民法違反の容疑で逮捕。刑期等は不明。

47ページ 1 行目・129ページ 9 行目

1961年～ 何年間か服役。

166ページ 7 行目

1977-80年の間 工場隣の教会で洗礼を受ける。

275ページ11行目

1981年 3 月初旬 死亡。

271ページ 5 行目(表題込み)・275ページ17行目～276ページ 2 行目・276ページ 9 行

目

続いて、筆者の自己紹介をする。経済学研究者（大学教員）である。1954年7月に大阪市西淀川区姫里生まれで、生年・学年は『李歐』の主人公＝一彰と同じである。4～7歳には西淀川区出来島に移っていたが、父死去後に8歳で姫里に戻り18歳まで住んでいた。姫里の中でも零細工場地帯の3丁目である。祖父が町工場をやっていて、祖父死去後にその会社は叔父が継いだが、私は隣接する土地の借地権を相続し、その貸工場家賃を受け取っていた。姉は『李歐』で言及されるカトリック教会の付属幼稚園（78ページ）に通っていた。大阪市立姫里小学校に2年生から卒業まで通ったが、その小学校はこのカトリック教会のそばにあった。また京都大学経済学研究科大学院生の時、1980年代の大阪大学計算機センターに計算作業のために通っていた。

II. 疑問点

(1) 地理的な記述

『李歐』における次のような地理的な記述について疑問がある。当該箇所・記述および疑問の理由（「——」後）は下記のとおりである。

①26ページ「6歳のころまで住んでいた姫里という場所も、近くに十三の歓楽街があり」
124ページ「一彰はその足で十三に行き、商店街をうろついているところを…」
——姫里～十三間（姫里の北東端から十三駅）は約2.5kmあり、子どもにとって「近く」とは言い難い。子供の足には遠すぎる。高校生時代に私は北野高校（十三駅よりは姫里寄り）から自宅（姫里の中では西端）まで時々歩いてしたが、かなりの距離だった。

②67ページ 北新地での殺人事件に関して「一彰は…西天満署の二階の会議室のような部屋に入れられた。」
——殺人事件の起きたナイトクラブは北新地にあるのだから、西天満署ではなく曽根崎署の管轄のはずだろう。

③91ページ 1961年に一彰の母と森山の奥さんが「…女同士、…阪急百貨店の地階食品売場は魚が安いといった世間話…」。
483ページ 咲子「…お昼に阪急の食堂でオムライスを食べさせたら…」。
——阪神電鉄沿線の姫里住民なら阪神姫島駅から梅田へ出れば阪神百貨店に行くのが普通である。私は大学入学まで梅田の阪急百貨店の中に入ったことがなかった。

④112ページ「母はクリスマスには仕事を休み、一彰は朝から天王寺動物園に連れてってもらったこともあった。…動物園の帰りには、阪急百貨店にも行った。」
147ページ「御堂筋線はかつて、母と一緒に天王寺動物園に行くときに乗った路線で…」。

——1960年代でも1990年代でも、阪神電鉄沿線の姫里から行く動物園・百貨店は、阪神パーク・阪神百貨店である。天王寺動物園へは、阪神姫島駅-梅田駅-国鉄大阪駅-天王寺駅（または、地下鉄御堂筋線梅田駅-動物園前駅）と1回乗り換えで時間・料金ともかかる。阪神パークなら、阪神姫島駅-甲子園駅で乗り換えはない。

⑤198ページ「一彰は…アパートを出て電車に乗り、十三駅から路線バスに乗って野里で降り、まっすぐに守山工場へ向かった。」

——アパート近くの阪急北千里駅から阪急千里線に乗っていて、わざわざ十三駅で降りて市バスに乗り換えるだろうか？ 十三駅で降りずに阪急梅田駅まで出て、阪神梅田駅-姫島駅、が普通だろう。

⑥197ページ「房子は府立病院に入院し…」。(208ページ・267ページにも府立病院との記述)

——大阪市北部には府立病院はない。2021年現在で、次のとおり5つの府立病院があるが、いずれも西淀川区からの交通の便は良くない。

大阪急性期・総合医療センター（旧大阪府立病院，大阪府立急性期・総合医療センター）：大阪市住吉区

大阪はびきの医療センター（旧大阪府立結核療養所羽曳野病院，大阪府立羽曳野病院，大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター）：羽曳野市

大阪精神医療センター（旧大阪府立中宮病院，大阪府立精神医療センター）：枚方市

大阪国際がんセンター（旧大阪府立成人病センター）：大阪市中央区

大阪母子医療センター（旧大阪府立母子保健総合医療センター）：和泉市

⑦487ページ 一彰の姫里自宅で荷物が爆発。「一彰は息子と一緒にずっと淀川警察署で過ごした。」

——西淀川区姫里で起きた事件だから西淀川署ではないだろうか。

(2) 大学の仕組み

大学の仕組みについての記述についても、疑問がある。筆者は、大学・大学院は国立大に通い、その後4年間地方国立大学に勤務し、その後大阪府下の私立大学に勤務してきた。したがって、大学の仕組みについては幾分かは分かっているつもりである。

①11ページ「ゼミの仲間は全員が大学院への進学を決め…」。

——大阪大学工学部では、ゼミではなく研究室または教室（現在は「領域」）に所属する。大阪大学工学部では「ゼミナール」は授業の名称である（大阪大学HPより）。大学院進学率も高すぎる。大阪大学HPによれば（2022.3閲覧），2020年度でも，工学部定員820名なのに対し，工学研究科博士前期定員811名であり100%の枠ではない。さらに他大学から

の大学院進学も含めれば、この率はさらに低くなる。

②12ページ「端末の前」「画面をスクロール」

——1976年頃についての記述だが、当時はメインフレームの大型計算機にパンチカードから入力し、計算結果はラインプリンターから紙へ印刷出力されていた。筆者は京都大学大学院生の頃1981～2年頃に計量経済モデル作成のために千里の大阪大学計算機センターに通っていたのだが、大型計算機にパンチカードから入力し、ラインプリンターへの出力を受け取っていた。大量のパンチカードを箱に入れ出力紙を大きなファイルに入れて持ち歩いていた学生・院生を思い出す。下記の大阪大学計算機センター HP で示されているように、大阪大学で分散システムになるのは1980年代後期である。

(参考) 大阪大学計算機センターホームページ

https://www.cmc.osaka-u.ac.jp/?page_id=89

大阪大学サイバーメディアセンター

旧情報処理教育センターの沿革

(中略)

1987年2月 IBM の汎用計算機3090-200と PC (5550) を用いた複合システムに更新

1992年3月 NeXT ワークステーション388台を中心とした分散システムに更新

...

一彰は工学部の研究室で作業しているので、計算機センターではなく工学部研究室には、端末があった可能性はあるが、京都大学でも大阪大学計算機センターでも、工学部生・院生と思われる人たちが大量のパンチカードを箱に入れ、出力紙を大型ファイルに閉じて持ち運んでいた。

③12ページ「橘助手は、四十を過ぎてもまだ助教授の席が空かない状況…」。

15ページ「敦子は亭主より一足先に阪大文学部の助教授になっていて…」。

——普通は、助手-講師-助教授（現在は准教授）だから「講師の席」だろう。もちろん、大学や学部によって講師ポストがない場合もあるだろうが、国立大学で文学系なら、講師ポストがあるほうが多いはずである。

⑤51ページ「教務課へ行って就職相談の登録をし…」。

——就職相談の担当は教務課ではなく就職課ではないだろうか。現在は、「大阪大学キャリアセンター」が全学部の就職支援をしているようである。（<https://career.osaka-u.ac.jp/>）

(3) 外国人労働者

1980年代には、中国残留孤児の帰還者はいたが、正規入国の中国人労働者はいないはず

である。ちなみに、私が祖父から相続した土地の借り手会社工場では1980年代後半に中国残留孤児帰還者1名が働いていた。

①28ページ「金と朴（姫里工場の労働者：筆者）は韓国人だと聞いたが、…金は少ししか日本語が話さず、朴はまったく話せなかった。」

——1961年頃についての記述だが、1960年代にネイティブの中国・韓国人は少ない。私の経験ではネイティブでも韓国人差別が厳しいので表立って韓国語で話さなかった。

下記の文献によれば、海外からの労働者受け入れは1980年代に入ってからである。

津崎克彦、在留外国人統計に見る外国人労働力の性質と変容、『四天王寺大学紀要』第58号（2014年9月）

「第二次世界大戦後から1980年代まで、日本の労働力は主として国内の労働者のみでまかなわれてきた。この期間に日本が経験した高い経済成長と増大する労働需要に対して、集団就職や出稼ぎ、進学を媒介にした移動など、労働者の地域的な移動が労働供給に果たした役割は大きい（依光他 2003：15-20）。しかし、そうした動きが国外にまで展開することはまれであった。しかし、1980年代になると、一部産業の労働者不足に起因する海外からの労働者受け入れの声が高まり、また、不法就労者に代表されるような実態としての外国人労働者の就労の拡大が認められるようになった（依光他 2003：26-28）。」

②26ページ「そこで働いていた数人の外国人労働者たちの、中国語や朝鮮語の話し声」

88～89ページ「キムは、片言の日本語で自分は「チョンラナムド」の「クアンジュ」というところから来たと言った。」

89ページ「パクは、「キョンサンナムド」の「プサン」の出身で…、遠縁を頼って日本に来たと聞いた。」

95ページ「キムの日本語は拙く、パクはまったく日本語を話さなかった。」

97ページ「すると男は、「ピャオピャオリャンリャンア……」と…呟き、もう一人の男のほうが「ニィセェミ」と…笑った。」

——これらは1976年頃についての記述だが、西淀川区には在日韓国・朝鮮人は多かったが、彼らは差別をおそれて表立って中国語や朝鮮語は話さなかった。また、密入国者なら、なおさら目立たないようにするはずである。

③88ページ「守山が呼ぶ男たちの名前はそれぞれ「ヤン」「チョン」「キム」「パク」だった。」

95ページ「工場には新顔が二人入ってきた。今度は名を「リャオ」「ワン」といった。」

133ページ 田丸「金正義や朴和善といった名前を、覚えとるか。六〇年秋に工場から姿を消した奴らや」

——差別が厳しいので、ほとんどの在日韓国・朝鮮人は日本名を名のっていた。私の通っ

ていた高校の同窓生のうち在日韓国・朝鮮人も在校時にはほとんどが日本名だった。数十年後の同窓会では、そのうちのかなりは医師となって本名を名乗っている。

④99ページ（守山）「あの二人は海の向こうから逃げてきた。」

——密入国者は目立たないようにするはずである。

⑤133ページ 田丸「結果的にあの工場は、反共や親共のスパイのねぐらになっとったんや。」

——反共と親共の両方が同じ工場にいるはずはないだろう。

⑥166ページ「工場主が服役して何年か閉鎖されたはずの工場が…」

——工場主（守山耕三）の罪は外国人労働者の違法雇用である。外国人労働者の違法雇用によって服役何年間かは重過ぎる。外国人に不法就労活動をさせた者への罰則は、下記のように最高刑で懲役3年である。

出入国管理及び難民認定法（昭和二十六年政令第三百十九号）

第七十三条の二 次の各号のいずれかに該当する者は、三年以下の懲役若しくは三百万円以下の罰金に処し、又はこれを併科する。

一 事業活動に関し、外国人に不法就労活動をさせた者

⑦30ページ「新地一丁目の会員制高級クラブ『ナイトゲート』…何人かいた韓国人や中国人のホステスが…」。

——工場労働者と同様に、当時は韓国人や中国人と表立って名乗っていなかったはずである。

（4）守山の工場

①83ページ「工場には機械が四台」。

88ページ「工場には四人の工員がおり…」。

331ページ「百坪の工場の庭」。

464ページ～465ページ「守山工場の四百坪の敷地」。

501ページ「百坪の作業場」。

——敷地300坪、作業場100坪という規模から見て機械数・工員数が少なすぎる。

②501ページ 1990年「工場と前庭を残した二百坪を、九億で売却」。

——バブル期とはいえ坪450万円（＝9億円／200坪）は高すぎる。現在、2022年でも下記のサイト（2022年3月14日閲覧）によれば坪80万円弱である。

<https://tochidai.info/osaka/osaka-nishiyodogawa/>

姫里 2-6-3 姫島駅より 200m 79万9999円/坪

(5) 暴力団関係の犯罪者に甘い周囲の眼

①166ページ「工場主が服役して何年か閉鎖されたはずの工場が、人手に渡ることもなく再建されて…」。

272ページ「守山製作所は大手機械メーカーの孫請けになって受注は安定した。」

同 「三年目には受注先も数社に増えていた。」

273ページ「守山は信用金庫から六千万を借入れ…」。

299ページ「先代から引き継いだ工場のために奔走する真面目で熱心な若社長という周囲の評判」。

——守山は入管難民法違反による服役者で、しかも暴力団や外国スパイに関係している。そのような者に対する金融機関や零細業者の目は厳しかったはずである。取引先を見つけるのも困難だろう。手形も落とすのも難しかったのではなかろうか。私の小学校の同学年90名あまりの中から、知る範囲でも暴力団員が3名——1名は中学校卒業と同時に見習いになり、2名は高校中途退学で入ったらしい——いるが、同窓生の暴力団への目は厳しく、彼らを敬遠していた、と私は思う。

(6) 一彰の中国語能力

李歐が身体・頭脳とも超人的なのはさておいても、一彰の中国語能力も超人的すぎる。

①34ページ「北京風の発音を聞いたのは初めてだった」。

——一彰は北京語と広東語と聞き分ける能力がある。

②64ページ～65ページ 電話で中国語会話

——工学部学生で中国語の勉強は3年足らず（大学1年途中から大学4年春）の中国語サークルに入っていたくらいで、電話で中国語会話が可能か、かなり疑問である。

(7) 相続

守山耕三の資産が、一人娘の咲子を差し置いて、血縁関係のない一彰へ「相続」されるのは不自然で、その説明も不十分である。

①274ページ「四人の従業員はみな温厚な五十台の熟練工で、一彰は見習工として、守山の「甥っ子」として、さらに工場の後継ぎとして、ごく自然に迎え入れられた。」

275ページ「…実の娘の咲子と後継ぎの一彰を両脇に抱えて記念写真を撮った。」

293ページ（一彰が）「一切の工場の財産を引き継いだ。」

——相続人は一人娘の咲子のはず。守山と一彰には血のつながりは無く、養子縁組との記述も無いから、一彰に相続権はないはずである。贈与なら高額な贈与税がかかる。少なく

とも咲子による相続放棄は必要だろう。

②468ページ「土地の半分は結婚した時点で咲子の名義にしてあった。」

——本来の相続人は守山の一人娘の咲子。残り半分を一彰はどのように相続したのか？
また上記の293ページの記述「一切の工場の財産を引き継いだ」と矛盾する。

(8) その他

①17ページ「唐詩の七言歌行の一つをタイプした紙」。

——これは一彰が大阪大学在学中1976年までのことだが、ワープロは1980年代半ばに普及したのであり（下記を参照）、この時期にはまだ一般的ではない。和文タイプは仰々しすぎて個人では使わなかったと思う。

（参考）コンピュータ博物館

日本語ワードプロセッサ (<https://museum.ipsj.or.jp/computer/word/history.html>)

東芝は、…日本語ワードプロセッサ JW-10 を1978年9月に発表した。…一般公開し、翌年2月より出荷した。価格は630万円であった。

以降、各社から種々の方式の日本語ワードプロセッサが次々と発表された。（中略）
1982年に入ると、…その後も電機メーカ、事務機メーカなどからワード・プロセッサが発表された。

（中略）1984年8月に富士通は…を22万円で発売して、低価格化の口火を切った。1985年7月には、東芝がラップトップ型の…を99,800円で発売した。低価格により日本語ワープロの普及が進み、業界全体の生産台数は100万台に達した。1986年11月には…この年の生産台数は200万台を突破した。

（中略）1989年には、年間出荷台数は過去最大271万台に達し、累積販売台数は1,000万台を突破したが、その後年間販売台数は減少していった。

（コンピュータ博物館：「貴重な歴史的な情報を学会に適した方法で保管するために、学会のウェブページにバーチャルな「コンピュータ博物館」を設置致しました。」
<https://museum.ipsj.or.jp/about/index.html>)

②94～95ページ「咲子から「上げる」の一言で手渡された…。母の読んでもらったのは『プルターク英雄伝』とか『ロードス島戦記』とか…」

——水野良『ロードス島戦記』は文庫書下ろしで、角川文庫版は1988年発行である。この場面1960年には出版されていない。

③290ページ「一彰は大阪刑務所に入獄」。

——大阪刑務所は、下記のように、執行刑期10年未満で犯罪傾向が進んだ者・外国人・長期収容再犯者であり、一彰はどれにも当てはまらない。

(参考) 刑務所. net (<http://keimusho.net/39osaka.html>)

大阪刑務所

執行刑期が10年未満で犯罪傾向が進んだ者 (B 指標受刑者), 日本人と異なる処遇を必要とする外国人 (F 指標受刑者), 無期刑および執行刑期10年以上の犯罪傾向が進んだ者 (LB 指標受刑者) を収容しています。

(収容分類級) B, F, LB

④520ページ 「遺伝子組み換え技術で作り出された, さまざまな新しい品種の農作物」。
——1991年の記述だが, 下記のように遺伝子組換え食品が販売され始めたのは1990年代半ばのようである。

(参考) バイテク情報普及会 (<https://cbijapan.com/faq/food/59/>)

「1994年 (平成6年) に, 世界で初めての遺伝子組換え食品が, 米国で販売されました。」

むすび

細かな疑問・指摘を並べたが, 初めに述べたように, この小説についての文学的評価ではない。私の経験を確かめ懐かしむことが目的である。

外国人労働者や暴力団についての記述はノワールな雰囲気醸しだすためだと理解するが, しかしながら, 細部を固めておくことがフィクションの説得力に必要だろうと思う。

おわり